

## 歩き出した「かまりん」

広島県呉市立蒲刈中学校長  
二宮肇美



「かまりん」は蒲刈中学校の校舎に入っすぐの場所に立っている。出番が来ると生徒が命を吹き込むことになっている。「かまりん」が歩くと子ども達が一斉に集まってくる。「かまりんが来た～」と、低学年の児童は中がどうなっているのか興味津々で、顔を下からのぞき込む。集まった小学生にやさしく手を振ったり握手をしたり頭をなでたりと「かまりん」は忙しい。

蒲刈中学校のキャラクター「かまりん」は、10年前に当時の中学3年生がデザインした。以来、小中合同運動会などの学校行事はもちろん町の中でもイラストはよく使われてきた。そんな中、生徒数が減少し、地域貢献活動を効果的に行うための助っ人として、着ぐるみの制作案が浮上してきた。ところが、着ぐるみ制作費は数十万円かかるらしく途方に暮れた。学校にはそんな予算はない。

何とかして生徒の強い味方を作りたいとの思いで自作を決意した。骨組みは百円均一のフラフープを使い、工事用ヘルメットで頭を固定し、服や靴はフェルトを使うことにした。夏休みに職員室にミシンと材料を持ち込み、職員それぞれができる場所で協力し合って制作に当たった。

2学期始業式で、完成した「かまりん」を生徒に紹介し、活用のアイデアを募集した。さっそく福

祉の学習で地元の施設を訪れる生徒が「かまりん」に命を吹き込んだ。施設では、高齢者が笑顔で手を振り「かわいい～、かまり～ん！」と声をあげた。「すごいです！例年と全く反応が違って、とても和やかに活動がスタートできました」と引率した教諭から報告があった。

「かまりん」紹介のために教育長室へ行った時のこと。市庁舎に入ると偶来していた保育園児たちに囲まれた。1回は市民が多く集まるフロアだ。生徒たちはその広いフロアを「かまりん」を紹介しながら一周した。仕事の手を休め、立ち上がって拍手をしてくれる職員、笑顔で手を振ってくれる人、「写真を撮ってもいいですか？」とカメラを向けてくる人。その姿に生徒たちは「かまりん」の威力を実感した。

町内の催しで地域貢献をしようと「かまりん」に命を吹き込み参加した生徒がいた。もちろん、そこでも大人気で、たくさんの笑顔を作り出すことができた。そこで何時間も歩いて靴底が薄くなったため、職員室で修理をした。靴底から生徒の頑張りが伝わってくる。

歩き出した「かまりん」が帰って来る度に、修理の場所はないかとそっと着ぐるみを見るのも楽しみの一つだ。